



「人生 100 年時代の学び」に向けて

超スマート社会(Society.5.0)の実現を目指して想定された新学習指導要領が、今年度より小学校で完全実施されました。コロナウイルス感染症対応に追われる中、評価の観点も変わり、授業についても試行錯誤の連続であったかと思うと、皆さんの御苦労に頭が下がります。

さて「Society5.0」とはどんな社会なのか、想像できますか？内閣府のWeb サイトでは、「サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムであり、そこで実現する社会は、人工知能により必要な情報が必要な時に提供され、社会の変革を通じて一人一人が快適で活躍できる社会」と説明しています。人間の社会は進化を続けています。社会全体に「ガス・水道・電気」が完備されたとき、私たちの生活は一変しました。それ



まで家事労働で負担が重かったものが、いろいろな場面で軽減され、働き方が変わることで社会の構造までも大きく様変わりしたのです。それと同様にネットワーク環境の整備やAIの発達は、私たちの生活を今後どのように変えるのか、想像を超えるものになると思います。

これらを踏まえ、人生 100 年時代を迎えた今、学びのスタイルは大きな変化を迎えています。コロナウイルス感染症のまん延により、この動きは一層加速化しました。浜松市でも、学習活動の一層の充実と「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、1人1台のタブレット端末を活用した授業改善が推進されます。

では家庭科では、ICTをどのように活用し授業改善を図ればよいのでしょうか。例えば一斉授業で、教師の示範台に児童を集めて教員が説明して始める場面がありましたが、ICT資料を使えばもっと効果的な提示方法があると思います。また一度説明を聞いただけでは理解が難しい児童については、各児童が手元のタブレットで資料を確認しながら作業を行えば、机間巡視する教師を待つ時間がなくなると思います。



これまで長い間に培ってきた教育実践を生かしながら、これら最先端のICTをベストミックスさせた新しい挑戦を楽しみにしています。

小学校家庭科部顧問校長 柳瀬 美穂

全国小学校家庭科教育研究会 全国大会(東京大会)について

今年度の全国大会は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、紙上・映像での発表となりましたが、このような状況の中、東京都では、密にならないよう授業公開の仕方を工夫し、研究授業が行われました。

東京大会については、全小家研会報(令和2年度2号 No.158)に掲載されており、ホームページでも閲覧可能です。

(全国小学校家庭科教育研究会 <http://www.teachers-net.com/zenshokaken/index.html>)

コロナウイルス感染症対策のため、家庭科授業ではたくさんの制約があった今年度でしたが、その反面、学習形態の工夫や、研究授業の方法、リモートやICTの活用など、たくさんの成果も生まれた1年間であったと思います。また、家族の関わりについて、家庭科の学習の中で、見直すきっかけともなったのではないのでしょうか。来年度の家庭科部研修会も、それらの成果を共有し、家庭科教育充実の場としていきたいです。



本年度は、「よりよい生活を自ら創り出す子供の育成」をテーマに研修を進めてきました。コロナ禍のため研修会は第3回のみでしたが、小清水先生の講話をもとに、新学習指導要領に基づいた評価について考えることができ、有意義な研修となったと思います。また、学校にいながらミライムのメッセージ上で情報交換ができ、「新しい研修の形」も見えてきた1年でした。

時代の流れや社会の状況に対応しながらも、家庭での生活時間が増える今だからこそ、「家庭科」を学ぶことの大切さを考え、家庭生活につながる研修をしていきましょう。

1年間家庭科部の活動に御協力いただきありがとうございました。

(家庭科部役員一同)